

令和元年度 佐世保市立看護専門学校 学校関係者評価（評価と課題）

項 目		評価内容と課題	自己評価
教育理念 教育目的 教育目標	・教育理念、教育目的、教育目標の設定、達成	教育理念・目的は看護師養成所の教育上の特徴を示しており、学生の学習の指針となっている。各自1冊ずつ持つ学生便覧に掲載することで、常に学生や教職員が確認できるようにしている。また、教育目標は、理念・目的と一貫性があり、さらに具体的な短期目標を掲げて、教員の教育活動の指針にもなっている。看護師国家試験合格率は、80名体制になって3年連続100%である。	3.5
学校運営	・学校組織 ・学校会議等 ・教員適正配置	<ul style="list-style-type: none"> ・公立の運営であることから、事業計画に沿った運営方針が策定され、運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されており有効に機能している。 ・予算・収支等財務については、議会での承認を得ている。 ・教務会議は定期的開催し、議事録は適切に作成・管理している。また、学生の科目や実習等に関する問題発生時は、臨時会議で教員間の情報共有を図り検討している。 ・15名の専任教員を配置しているが、将来構想に基づき、教員養成の計画は継続している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15名の専任教員は自己研鑽だけでなく、計画的な人材育成をしていく必要がある。 	3
教育活動	・教育課程 ・実習、授業関係	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程は、教育理念・目標と一貫性のある内容となっており、シラバスは、学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致したものになっていた。教育課程一覧表及び学科目進捗表、学年別年間計画を参考に、学生たちは学ぶことができた。また、授業に必要な教材は揃え、計画のとおり実施した。毎年、シラバスを見直し、授業内容や指導方法が、学生レベルに合うよう工夫・改善している。 ・実習の目的・目標・評価基準を各実習に設け 	2.8

	<p>・教員の研究、成果の発表</p>	<p>実施した。各実習施設とも実習指導体制が整っており、学生の実習での学びが大きかった。58回生学校評価アンケートの結果において、講義やシミュレーション学習及び実習指導体制に関しては、満足・ほぼ満足を合計すると96～100%であり、学生から教育活動について高い評価を受けている。今後も学生個々に応じた指導を継続していく必要がある。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学びはあったとの評価を受けているが、各教員の教育に対する満足度は低い。教員がやりたい理想の教育と実際の教育の結果とのギャップを感じている。もっと、やりたい教育を具現化して教育できる環境作りが必要である。 ・業務の整理とITを活用したことも検討していく必要がある。 ・教育教材としてiPadを導入するため、計画的な予算計上が必要である。 ・2つの実習施設から1名ずつ実習指導者養成へ人材を出していただいた。各施設で実習指導者の世代交代が生じていることから、今後も計画的に実習指導者養成を実習施設へ依頼していく必要がある。 <p>・各教員は、教育する上での日々の課題を打ち出し、講義や実習で学生へアンケート等を行い、日常の教育に活かすことは出来ているが、研究までには至っていないのが現状である。また、講義と実習の掛け持ちであるため、じっくり研究する時間を生み出せないでいる。</p> <p>・専任教員としての経験が浅い人が多く、領域の担当者を2名ずつ配置し、補完しあいながら学生指導を行っている。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員全員が、時間にゆとりを持たずに研究活 	<p>2.4</p>
--	---------------------	---	------------

	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の整備と管理 ・学籍管理 	<p>動が行われていないことから、業務の整理と教員一人ひとりの教育に対するモチベーションの確保が課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関連した研究は長期的な視点で取り組む必要があるため、対象となる期間を教員が同じ視点で継続して取り組む意欲の維持が課題である。 ・全学年が80名体制になって3年が経過したことから業務の見直しや整理をするなど振り返りが必要である。 <ul style="list-style-type: none"> ・図書室に関しては、学生が自己学習で活用する姿をよく見かけた。特にケーススタディをまとめる時期や実習前の事前学習時に図書の貸出冊数は多いが、紛失図書が前年度より増加するなどの課題がある。また、ルールを守らない学生も散見され、指導を行っている。 ・学籍管理システムの導入により、成績や学籍入力において時間短縮を図ることが出来ている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸出の方法を見直す必要がある。 ・新カリキュラムに向けて、学籍管理システムの変更が必要であり、業務効率化のためのシステムリプレイスと合わせて予算を確保する必要がある。 	2.5
入学	<ul style="list-style-type: none"> ・入学に関すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月に推薦入試、1月に一般入試（前期）、3月に一般入試（後期）を実施して定員80名の入学があった。内訳は、推薦入試受験者48名、一般入試（前期）89名、一般入試（後期）9名であった。受験者数は昨年並みであった。受験者を確保するために、本校のポスターを初めて作成し県内の関係施設や本校指定高校などに掲示した。高校生対象の進路ガイダンスにはほとんど参加して、本校のPRに努めた。しかし、少子化の傾向は今後も続くため、小・中学生をも対象にPRする必要がある。今年度は、推薦入学予定者を対象に入 	3.4

		<p>学前学習の説明会を行った。入学前の学習として看護学生に必要な科目のドリルとワークブックを活用して看護の覚え書きを読むことを課題とした。また、推薦入学合格者をはじめ入学生には保護者を含め説明し、佐世保市の医療人材としての認識を深めてもらった。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスについては、内容を工夫しながら参加者の増加を図り、さらには受験生の増加につなげる必要がある。また、ホームページの内容の工夫も課題である。 	
<p>学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境及び学習支援 ・生活支援 ・国家試験合格支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習低迷者に対しては、定期的に保護者との面談を行い、保護者の協力を得ながら学生を支援した。 ・メンタル面のサポートを必要とする学生や学習の進捗や内容の特徴を考慮して、教員が個別対応し、あるいは臨床心理士へ繋いで継続的に関わってきた。 ・季節の流行性の感染症については、啓発とともに予防接種を実施し健康管理に努めた。 ・学生の経済的支援として、全学生に長崎県修学支援制度や日本学生機構の奨学金制度の情報提供を行っている。また、学生の個人に合わせて、医療機関からの奨学金を受けられるような支援も行っている。 ・長期休暇（夏・冬季休暇）中のアルバイトに関しては、病院と連携して情報を提供している。 ・水曜日を除き、学生が申請をすれば19時まで学習・演習ができるように校舎を解放している。主に、1・2年生には技術演習で実習室を、3年生には国家試験に向けた学習で図書室を利用してもらっており、学びの場となっている。58回生の学校評価アンケートにおいても、学習環境は96%の学生が満足とほぼ満足と示している。 <p>また、学習環境の場を提供するだけでなく、特に3年生は12月から2月前半まで国家試験</p>	<p>3.4</p>

		<p>に向けて、個々の学びが深まるように学生をグループに分け、グループ毎に担当教員を決めて支援した結果、58回生全員が国家試験に合格した。(なお、過去3年間の国家試験合格率は100%である。)</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、学習の進度に伴い、学生間に能力の差が生じている。そのために、学習低迷者には早期から学習の習慣づけをさせるように関わってはいるものの、学生自身の意識を向上させるまでには相当の時間を要している。また、学習と臨地実習での学びを統合させ、理解させることが難しい状況である。主体的に学び、かつ知識の統合ができるような教育が課題となっている。 	
<p>就業 進学 卒業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定 ・卒業生の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次の夏休みの課題に、県内の医療機関を調べさせて、情報収集させた。また、本校主催で2月に市内の医療機関による就職説明会を行った。1年次2年次が参加して就職への参考にしている。また、春・夏季休暇に個人でインターンシップに参加して就職試験を受ける学生もいる。 ・3年次になると3月末から就職試験が始まるため、進路、就職に関する支援体制は、3年カリ担当を中心に頻回に個別面談をしながら行っている。 ・推薦入学した学生は、市内就職が条件となっていることから市内に就職できた。53名が市内就職できた。(67.5%) ・進学(助産師、大学編入)は、例年と同様11%であった。 ・卒業生に対しては、卒業2か月目に近況報告を兼ねてリフレッシュ目的に、学校へ集合させてフォローした。卒業後も就業状況等の把握を行いながら、医療機関との連携を図っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立の学校ということから、議会から就職状 	<p>3.4</p>

		況と国試合格率は注目されている。市内就職率を上げる必要がある。	
地域社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携と社会への情報発信 ・実習施設との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内就職が地域貢献になることを各学年の学生には説明している。 ・受験者等へ本校の情報を的確に提供するため、ホームページを頻回にリニューアルしアップしてきた。 ・オープンキャンパスや市看祭には、多くの高校生や保護者あるいは地域の方々に参加して頂いた。また、医療機関の催しに学生ボランティアとして参加した。 ・本校のパンフレットを市内の各中学校へも配布しPRした。 ・教員の社会貢献として、学校協議会の役員や看護職能団体の役員・研修の講師等を担って活動している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の養成所における教育課程は、時間が過密であるため、学生の負担にならない状況でボランティアの精神と実行ができるよう支援したい。 	2.7
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的な視野を広げるためのシステム 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間、英語を学ばせているのは、本校の環境からくるものからでもあるが、学生に国際交流を身近なものと感じられるようにはない。 ・国際医療に興味を持っている学生がいる。 ・米軍基地が隣接していることや国際観光船が寄港する市でもあり、実習施設に外国からの入院患者がある中での実習をしている。実習で受け持ちの患者に外国籍の方もいる。より国際感覚を持った学生の育成が必要である。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、近隣の大学に観光学科があることから、交流を持ち、国際を視野に入れたシステムを構築したいと考えたい。 	1